

自己の文章を客観視し、推敲できる生徒の育成 —対話型生成AIの活用を通して—

特別研修員 国語 石井 健悟（高等学校教諭）

【生徒の実態】

○要約文や小論文に対する推敲について、手順や視点に関する理解が不足しているため、粘り強く行おうとする姿勢があまり見られない。

【教師の願い】

○自らの文章に対して、粘り強く推敲できる姿勢をもたせたい。
○生徒同士で、要約文や小論文の添削ができるようになってほしい。

【事前の活動】

評価規準を参照しながら、自力で600字の小論文を作成する。

実践事例 高校1年

現代の国語「小論文の推敲」

自己評価や他者評価に基づく推敲

評価の観点	レベル/評価基準		
	A	B	C
①主張の明確性	自分の考えに説得力をもたせるために、反対の立場や意見を踏まえた内容になっている。	自分の考えは明確になっているが、反対の立場や意見までは踏まえていない。	自分の考えが明確に示されていない。
②主張と根拠の関連性	自分の主張を支えるための、適切な根拠が示されている。	根拠は示されているが、主張との関連性が強く不十分である。	根拠が示されていない。

自己評価①	
①	B
②	A
他者評価①	
①	B
②	B



《他者評価の様子》

反対の立場について、もう少し具体例があれば更に説得力が増すと思うよ。

《評価規準と自己評価、他者評価の例》



★生成AI活用のメリット

①繰り返し質問ができる ②自学自習に役立てられる ③生徒の理解度に応じて活用できる

対話型生成AIを活用した推敲

【手立て①】生成AIによる分析やアドバイス

総合評価

82点/100点

コメント:

文章は分かりやすく、主張も明確で、多様な視点を取り入れた点が評価できます。ただし、具体例やデータを加えることでさらに説得力が増し、読者への訴求力が高まるでしょう。また、高齢者が免許を返納する際の課題（地方の交通インフラ不足など）についても具体的に触れると、さらにバランスの良い論文になります。

《自分が作成した小論文と上記の評価規準を入力して得られた生成AIの回答の一部》



《生成AIを活用する様子》

AIにも具体例やデータが不足していると指摘されたから、取り入れてみようかな。

【手立て②】プロンプトや推敲の視点の共有

推敲時に役立ったプロンプト

具体的なデータや統計を提示して

この小論文に関する詳しい事例を教えて

小論文の構成で気になる点があれば指摘して

《共有したプロンプトの例》

【事後の活動】

再度、自己評価や他者評価を行い、推敲前後の違いを理解する。

AIと人による添削のメリットやデメリットを実感し、今後の推敲に生かす。

反対意見の具体例を聞くためのプロンプトを入力している人がいるね。



《プロンプトを共有する様子》

たしかに、自分と反対の立場からの意見を考えるのは、重要だけでも難しいよね。

成果

○生成AIを活用することにより、自己評価や他者評価では獲得できなかった分析結果や推敲の視点を得ることができた。また、繰り返しAIと対話をし、粘り強く推敲する姿勢も見られた。
○推敲の際に使用したプロンプトの共有により、他者の推敲の視点を知ることができ、今後の学習につながられた。

課題

●推敲におけるやりとりの全てを見取ることができる仕組みの構築や、自宅学習における有効的な活用方法の模索をしたい。